

観光学評論 執筆要項

1. 原稿は、日本語もしくは英語に限る。
2. 原稿には、本文（図表等を含む）のほか、邦文・欧文題名（副題）、邦文・欧文要約、邦文・欧文キーワード、目次を添付すること。
 - (1) 本文には、著者名、所属機関名、職名、eメールアドレスは記載しない。
 - (2) 本文には、必ずページ番号をうつ。
 - (3) 邦文要約は、論文（原著・展望・特集・萌芽）500字以内とする。
欧文要約は、論文（原著・展望・特集・萌芽）150語～800語程度とし、ネイティブ・チェックを必ず受けることとする。
 - (4) キーワードは、日本語・英語各5語以内で邦文要約・欧文要約の後に各々記載する。
3. 表題紙は編集委員会規定のものを使用する。（WEBサイト <http://jsts.sc/> より取得のこと）
4. 原稿の書式については、基本的な原則を以下のとおりとする。
 - (1) 原稿は横書きとし、A4の用紙を使って、40字×40行で印字する。句読点は全角の「。」と全角の「、」を用いる。
 - (2) 章、節、項は、半角で「I」「1」「(1)」「①」のように番号をふる。「はじめに」や「おわりに」等をつける場合にも、番号をふる。
 - (3) 本文中の数字は原則として算用数字（半角）を用い、漢数字は用いないが、どうしても必要な場合には、その限りではない。
 - (4) 「注」と「文献リスト」を別に作成し、本文の最後につける。
 - (5) 本文中の注の番号は、該当箇所の右肩に半角英数字、全角片カッコで1)、2)、3)・・・のように打ち、本文の最後に付けた「注」でも1)、2)、3)・・・のように半角英数字、全角片カッコの番号を用いる。
 - (6) 図表は順に番号を打ち、本文中に挿入箇所を指示すること。著作権者の了解を得ることなく、他者の図版を転用してはならない。
 - (7) 未発表の論文は既に学術雑誌にアクセプト（掲載決定）されている論文以外は引用文献として使用してはならない。
 - (8) 本文中の引用文献の提示、文献リストの作成方法は、原則としてアメリカ心理学会（American Psychological Association、以下APA）が定める方式（Publication Manual of the American Psychological Association Sixth Edition）に準拠する。

【文中及び注内での引用表記例】

- ① 本文中で文献を引用するときは、著者名、出版年を記す。括弧つき書式を使用するときは、半角コンマ「,」を使用し、著者名と出版年の間に半角コンマを入れ、半角コンマの後には半角スペースを入れる。

著者が1人の場合

邦文：前田（1987） 欧文：Pearce（2005） 邦文：（前田, 1987） 欧文：（Pearce, 2005）
--

著者が2人の場合

和文文献では全角中黒「・」、欧文文献では「and」（括弧つき書式を使用するときは半角アンパサンド「&」）を用いて繋ぐ。

邦文：須藤・遠藤（2005） 欧文：Duncan and Gregory（1999）
邦文：（須藤・遠藤，2005） 欧文：（Duncan & Gregory，1999）

著者が3人以上5人以下の場合

初回の引用のみ全員を表記し、2回目以降は「第一著者他」、欧文の場合は「第一著者 et al.」とする。

初回
邦文：青木・新倉・佐々木・松下（2012） 欧文：Falk, Ballantyne, Packer, and Benckendorff（2012）
邦文：（青木・新倉・佐々木・松下，2012） 欧文：（Falk, Ballantyne, Packer, & Benckendorff, 2012）

2回目以降
邦文：青木他（2012） 欧文：Falk et al.（2012）
邦文：（青木他，2012） 欧文：（Falk et al., 2012）

著者が6人以上の場合

初回から「第一著者他」、欧文の場合は「第一著者 et al.」とする。

邦文：田中他（2000） 欧文：Dredge et al.（2012）
邦文：（田中他，2000） 欧文：（Dredge et al., 2012）

- ② 括弧つき書式で複数の文献を同時に引用するときは、半角セミコロン「;」でつなぐ。半角セミコロンの後には半角スペースを入れる。

邦文：（前田，1987; 安村，1998） 欧文：（Pearce, 2011; Wang, 2011）

- ③ 翻訳書を引用するときは、原書と翻訳書の出版年を半角スラッシュ「/」でつなぎ、訳者名を記載する。

Appadurai（1996/2004 門田訳）
（Appadurai, 1996/2004 門田訳）

- ④ 重版がある文献から引用するときは、初版年と引用する再版年を半角スラッシュ「/」でつなぐ。

Latouch（2004/2007）
（Latouche, 2004/2007）

- ⑤ 新聞記事を引用するときは、邦字紙、英字紙共に、執筆者名（無署名記事の場合は新聞紙名）と発行年を記載する。記事の詳細については文献リストに記載する。

（斎藤，2014）
（Cohn, 2017）
（読売新聞，2015）
（The Japan Times, 2017）

【文中及び注内での引用表記例】

- ・本文で引用した文献の詳細は全て文末の文献リストに記載する。
- ・邦文文献と欧文文献を一括し、文献を著者名（ファミリーネーム）のアルファベット順に並べる。
- ・邦文文献のサブタイトルの前には、2文字分ダッシュ（——）を付ける。ダッシュの前後にスペースは不要。サブタイトルの後に2文字分ダッシュは不要。
- ・中国語文献の書式については、邦文文献に準じることとする。

【邦文文献】

① 単著

著者名（出版年）『タイトル』出版社名

橋本和也（1999）『観光人類学の戦略——文化の売り方・売られ方』世界思想社

② 共著

第一著者名・第二著者名（出版年）『タイトル』出版社名

※3～7名の場合、著者名を全員明記すること。ただし、8名以上の場合、「最初の6名の名前…最終著者名」とする。

須藤廣・遠藤英樹（2005）『観光社会学』明石書店

③ 編著書

編者名編（出版年）『タイトル』出版社名

神田孝治編著（2009）『観光の空間』ナカニシヤ出版

④ 編著所収論文

著者名（出版年）「論文のタイトル」編者名編『本のタイトル』（掲載ページ）出版社名

安村克己（1996）「観光の不均衡問題とエスニック・ツーリズム運営の“格率”」前田勇編『現代観光学の展開——観光行動・文化観光・国際観光交流』（pp. 45-64）学文社

⑤ 雑誌論文

著者名（出版年）「論文のタイトル」『雑誌名』巻（号），掲載ページ。

※巻はイタリック体を使用

※受理されたが未発表の論文の場合は出版年を（印刷中）と記す

橋本和也（2013）「観光学の新たな展望——なぜ、いま「観光経験」なのか」『観光学評論』1(1), 19-34.

⑥ 政府刊行物など

編集機関名（出版年）『タイトル』

国土交通省観光庁（2017）『観光白書（平成29年版）』

【翻訳書】

著者名（ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル）.（出版年）. タイトル.
出版地：出版社. [訳者名訳（翻訳の出版年）『訳書のタイトル』出版社名]

Tribe, J. (1997). *Corporate strategy for tourism*. London, UK: International Thomson Business Press. [大橋昭一・渡辺朗・竹林浩志訳（2007）『観光経営戦略——戦略策定から実行まで』セنگーヅラーニング]

【欧文の文献】

① 単著

著者名（ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル）. (出版年). タイトル. 出版地, 国名：出版社名.

Ritchie, B. W. (2003). *Managing educational tourism*. Clevedon, UK: Channel View Publications.

② 共著

第一著者名（ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル） & 第二著者名（ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル） (出版年). タイトル. 出版地, 国名: 出版社名.

※3～7名の場合、著者名を全員明記すること。ただし、8名以上の場合、「最初の6名の名前…最終著者名」とする。

Reisinger, Y., & Turner, L. (2003). *Cross-cultural behaviour in tourism: Concepts and analysis*. Burlington, US: Taylor & Francis.

③ 編著書

編者名（ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル） (Ed.). (出版年). タイトル. 出版地, 国名: 出版社名.

Selwyn, T. (Ed.). (1996). *The tourist image: Myths and myth making in tourism*. Chichester: John Wiley & Sons Ltd.

④ 編著所収論文（ブックチャプター）

著者名（ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル） (出版年). 論文のタイトル. In 編者名（ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル, ファミリーネーム） (Ed.), 本のタイトル (掲載ページ). 出版地, 国名: 出版社名.

Gursoy, D. (2011). Destination information search strategies. In Y. Wang & A. Pizam (Eds.), *Destination marketing and management: Theories and applications* (pp. 67-81). Wallingford, UK: CAB International.

⑤ 雑誌論文

著者名（ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル） (出版年). 論文のタイトル. 雑誌名, 巻(号), 掲載ページ.

※雑誌名、巻はイタリック体を使用

※受理されたが未発表の論文の場合は、出版年を(in press)と記す

Wang, N. (1999). Rethinking authenticity in tourism experience. *Annals of Tourism Research*, 26(2), 349-370.

⑥ 雑誌論文（DOI付）

著者名（ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル）. (出版年). 論文のタイトル. 雑誌名, 巻(号), 掲載ページ. doi: XXXXXXXX

Tkaczynski, A., Rundle-Thiele, S., & Beaumont, N. (2010). Destination segmentation: A recommended two-step approach. *Journal of Travel Research*, 49(2), 139-152. doi:10.1177/0047287509336470

【ホームページ等の電子メディア情報】

著者（機関）名（公表年）「当該情報のタイトル」最終閲覧年月日, URL

※公表年が不明の場合は(n.d.)と記す

厚生労働省（2002）「サービス供給における契約について」最終閲覧日2002年5月12日, <http://www.mhlw.go.jp/general/seido/syakai/sienhi/jimu05.html>

Department of Immigration and Border Protection. (2015). *Working Holiday Maker visa programme report 30 June 2015*. Retrieved October 20, 2017, from <http://www.border.gov.au/ReportsandPublications/Documents/statistics/working-holiday-report-june15.pdf>.

【新聞記事】

新聞紙名（発行年月日）「見出し」（朝刊又は夕刊）, 掲載ページ

朝日新聞（2017, 10月23日）「投票率53.6%前後見通し」（朝刊）, p. 4.

署名記事の場合は、執筆者名（発行年月日）「見出し」『新聞紙名』（朝刊又は夕刊）, 掲載ページ

米谷陽一（2017, 10月23日）「長時間労働 抑制策は」『朝日新聞』（朝刊）, p.5.

Boyd, E. (2017, August 26). Qantas plays long game. *Gold Coast Bulletin*, p. 20.

【オンライン新聞記事】

新聞紙名（発行年月日）「見出し」最終閲覧日, URL(新聞社又はデータベースのホームページ)

朝日新聞（2017, 10月23日）「投票率53.6%前後見通し」（朝刊）, p. 4.

署名記事の場合は、執筆者名（発行年月日）, 「見出し」, 『新聞紙名』最終閲覧日, URL(新聞社又はデータベースのホームページ)

田辺静（2017, 12月14日）「移動図書館 豊富な大阪（もっと関西）」『日本経済新聞』最終閲覧日2017年12月14日, <https://www.nikkei.com/>

McKay, J. (2017, December 15). Brisbane gets 24-hour trading for 2018 Commonwealth Games. *The Courier Mail*, Retrieved December 15, 2017, from <http://www.couriermail.com.au/>

【日本語、英語以外の文献】

オリジナルのタイトルの後に、日本語又は英語に訳したタイトルを半角角括弧「[]」の中に記載する。「筆者訳」などを記す必要はない。

Piaget, J. (1966). *La psychologie de l'enfant* [The psychology of the child]. Paris, France: Presses Universitaires de France.